

「落語」を教材とした日本語授業の試み

— 落語スクリプトに出現する文型・文法の分析 —

Teaching 'Rakugo' in the Japanese Language Classroom

— Analysis of Sentence Patterns and Grammar —

森 真由美

Mayumi MORI

1. はじめに

日本語教育が担う役割については、コミュニケーションのための言語教育は言うまでもなく、加えて2000年以降は、文化発信の基盤としての日本語教育の重要性が語られている。その背景を踏まえ、昨今の教室活動において、ドラマのシナリオ、小説、漫画などを主教材として使用している活動例を耳にするが、日本の伝統文化である落語を主教材とした活動例は聞かれないのが現状である。しかし、「落語」教材は文化素材と言語素材の2つの側面を持っており、それらを統合した日本語教育に有効であると、筆者は考えている。

ここでは、言語素材に焦点をあてて、落語スクリプトに出現する文型・文法を分析し、落語スクリプトの主教材としての有効性について考察する。

2. データの収集及び考察方法

2.1 落語スクリプトについて

ここで分類・考察の対象とした落語スクリプトは、「寿限無」「時そば」「饅頭怖い」の3つのDVD¹⁾の音声を取り取り、作成した。これらのDVDはどれも、初心者向けに、落語の稽古用として販売されているものである。

現在、落語のDVDは多数販売されているが、それらは鑑賞することが目的であるため、ライブ収録での雑音や不明瞭な音声が含まれている。また収録当時の時事話や噺のネタとは関係のないことを話す場面など、主教材として使用するには不必要と思われる箇所が含まれている。一方、初心者の稽古用を目的に販売されたDVDにおいては、そういった箇所はすべて排除されている。初心者の稽古用の落語DVDは、噺のネタも簡単でわかりやすいもので、所要時間も短く、落語の基本構造であるマクラ・本題・オチがはっきりしており、また音声も明瞭に収録されている。そういった視点から探したところ、初心者の稽古用DVDは前述の3つであった。所要時間はそれぞれ、「寿限無」6分35秒、「時そば」12分10秒、「饅頭怖い」17分12秒であり、教室活動の教材としても、学習者が興味を持続しやすい時間となっている。

1) 「NHK趣味悠々 落語をもっとたのしもう 上巻〈寿限無〉に挑戦!」2007
「NHK趣味悠々 落語をもっとたのしもう 下巻〈時そば〉に挑戦!」2007
「古典落語 お稽古つけ 三遊亭歌る多 饅頭怖い」2009

2.2 文型・文法の取り出しについて

次に、スクリプトに出現した文型・文法を取り出し、出現順に表にまとめた。一回以上出現するものについては、最初に出現した箇所を取り上げたので、表中の文型・文法に重複はない。その際に取り出した文型・文法は、日本語教育の現場で実際に導入すべきであると判断したものである。その判断基準の参考とした書籍・資料は、『日本語能力試験N1～N5の重要表現を網羅 日本語表現文型辞典』、『日本語文型辞典』、『教科書解題』中の*Basic Japanese Course*と*Integrated Spoken Language*²⁾である。

2.3 文型・文法のレベル別の分類について

取り出した文型・文法を初級・中級・上級の3つのレベル別に分類した。その分類判断については、長年日本語教育に携わり、文型文法項目にも精通しておられるベテラン教師のお力をお借りした。

ここで分類基準を日本語能力試験（以下、JLPTと表す）にあるような1級～5級とせず、初・中・上級の3段階にしたのには、次のような背景がある。

2010年にJLPTが改正され、それにより、そのレベルは従来の4段階から5段階に増やされた。旧試験では、主催者の国際交流基金³⁾が「認定の基準」を、例えば1級では「高度な文法・漢字（2000字程度）・語彙（10000語程度）を習得し、社会生活をする上で必要な、総合的な日本語能力（日本語を900時間程度学習したレベル）」、2級では「やや高度の文法・漢字（1000字程度）・語彙（6000語程度）を習得し、一般的なことが

らについて、会話ができ、読み書きできる能力（日本語を600時間程度学習し、中級日本語コースを修了したレベル）」と、ある程度具体的に定めていたのに対し、新試験においては、「認定の目安」と表現を変え、新1級（以下、N1と表す）では「幅広い場面で使われる日本語を理解することができる」、新2級（以下、N2と表す）では「日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる」とし、新たに設定された新3級（以下、N3と表す）では「日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる」としている。受験生にとって、これは具体性に欠け、対策が取りにくい設定になっている。このことはJLPT対策用として出版される参考書や問題集が、従来のように、例えば「2級ならこの文型を、漢字を、語彙を学習せよ」と具体的に提示しにくくなったということであり、それ故、N〇級対策と謳った書籍が少なくなって、その代わりに、対策本の中にも「初級・中級・上級」の表示をする対策本が見られるようになってきている。2011年2月16日に、日本語教育関連の出版物を多く取り扱っている大手書店で調査した際には、文法（文型を含む）・語彙に関する新JLPTの級別（N1～N3）になっている問題集・テキストは34冊であったが、そのうち、問題集・テキスト中で取り扱っている文法・語彙のリストが具体的に級別に掲載されているものは、ask出版の『N1合格力養成 にほんご500問 上級』、同じくask出版『N3-N2合格力養成 にほんご500問 中級』の2冊のみであった。やはり、JLPT受験生だけでなく対策本作成者側も、新JLPTの出題範囲を具体的に指定しにくくなっている様子が見えられた。

2) 表3 *Basic Japanese Course* (1958) 長沼直兄編 p. 54-57 *Integrated Spoken Language* (1971)

3) 国際交流基金 日本語能力試験公式ウェブサイト www.jlpt.jp/about/index.html

2.4 3つのスクリプトの中の文型・文法分析

2.4.1 文型・文法の分析方法

各スクリプトから取り出した文型・文法を、その出現順に通し番号をつけ、それぞれを3つのレベル（B：初級 I：中級 A：上級）に分け、さらにその基本文型、用法、例などの補足説明を加えた表（下記、表I、表III、表V）を作成した。次に、それらの表をもとに、レベル別に割合を算出した（下記、表II、表IV、表VI）。

2.4.2 「寿限無」スクリプトについて

ここでは、「寿限無」スクリプトから取り

出した62の文型・文法について分析する。

「寿限無」スクリプトから取り出した文型・文法は、その出現順に1～62までの通し番号をつけた。そして、それぞれを3つのレベル（B：初級 I：中級 A：上級）に分け、さらに、その基本文型、用法、例などの補足説明を加えたものが次の表Iである。以下表Iで使われているクラスレベル欄の表記について、Bは（Basic）：初級、Iは（Intermediate）：中級、Aは（Advanced）：上級を表す。尚、2.4.3表III（「時そば」スクリプト）、2.4.4表V（「饅頭怖い」スクリプト）も同様に表記した。

表I 「寿限無」スクリプト 文型・文法分析

文型・文法（62）

（所要時間：6分35秒）

引用箇所	クラスレベル	基本文型、用法、例	出現順
という	B	〈N：名前〉という 昔から子宝なんという	1
ございまして	B	ございます=あります の丁寧語 存在	2
でございます	B	でございます=です の丁寧語	3
というと	I	連想	4
ようで	B	ようだ 推量	5
なんて	I	など ~のようなものは「なんか・なんて」は話し言葉	6
れる	B	れる・られる 受け身	7
ようになる	B	Vようになる 変化	8
てくれる	B	Vて+くれる	9
かい	A	YES・NO疑問文を表す終助詞	10
それが	I	「ところが」の意味 相手の予期していないことを述べる時の前置き	11
なかなか考えつかない	I	なかなか～ない すぐに見つからない	12
てえのは	A	Nというのは 主題 「てえ」は「という」の東京方言	13
ご住職	B	ご+A/N お+A（い）/N 丁寧語 例) ごあいさつ お元気	14
てもらう	B	Vて+もらう	15
と	B	Vる+と 条件	16

てえこと	A	ということ(だ) 伝聞 「てえ」は「という」の東京方言	17
からさ	B	からね 理由・原因	18
ちょっと	I	呼びかけ	19
てもらえないかい	A	Vてもらえないか 依頼	20
がある	B	存在	21
もんで	I	もので 感慨・驚き 「もんで」は「もので」の話し言葉 音変化	22
のところ	B	Nのところ 「ところ」は場所を表す	23
で	B	Vて/Aくて/Aで/Nで 理由・原因	24
こりゃ	B	これは (korewa) = こりゃ (korya) 音変化	25
の中には～がいる	I	存在	26
めでたそうで	B	そうだ 予想・判断 例) よさそうだ なさそうだ	27
三千年に一度	B	格助詞 割合・配分の基準 例) 3日に1回	28
てくる	B	Vて+くる 方向性・話者への接近	29
ていく	B	Vて+いく 方向性・話者への離反	30
獲っても獲っても	I	VてもVても 逆接仮定 望む結果が得られないことを強調	31
という	B	〈内容説明〉という 獲っても獲っても獲り尽くせないという	32
ところから	I	ことから/ところから ～ことが理由で	33
へえ	I	応答の声 驚き・疑問をあらわすときにも言う	34
というのは	I	Nというのは 主題	35
なんだか	I	なぜか 原因や理由がどうであるかわからないという意味	36
けども	I	けれども 前置き・和らげ 「けども」は話し言葉 縮約形	37
寝るところに住むところ	I	N1にN2 取り合わせ 例) おせんにキャラメル	38
上で	I	～のに 目的	39
になる	B	Nになる 結果	40
てくる	B	Vて+くる 変化の出現 例) 雪が降ってくる, 眠くなってくる	41
されて	B	される 非情の受け身	42
ととも～覚えきれません	I	ととも(ではないが)～ない 不可能	43
ていい	B	て(も)いい 許可・許容 「ていい」は話し言葉	44
読みやすい	B	Vやすい(複合形容詞) 簡単にできること	45
ように	B	期待・目標	46
ことによったら	I	ことによると, もしかしたら 慣用句的な表現	47

てしまう	B	Vて+しまう 残念	48
じゃないか	I	ではないか 判断・同意求め ~だと思う	49
てしまう	B	Vて+しまう 完了	50
ことになる	B	Vる/Vない+ことになる 決定	51
ということ	I	ということだ 伝聞	52
ような	B	~ようなN 例示	53
始末	I	(スル) 始末 出来事の最終的な状態を表す	54
まだ寝てる	I	まだVている 過去からの継続 「寝てる」は「寝ている」の話し言葉	55
てくる	B	Vて+くる (行って戻る) (「Vていく」の形はない) 例) 起こしてくる	56
起きなさい	I	Vなさい 命令形	57
てあげる	B	Vて+あげる	58
てやる	B	Vて+やる=あげる 動作の対象が動植物や自分の家族の場合	59
ねえか	A	V+ないか 命令 「ねえか」は「ないか」の東京方言	60
あんまり長いから	I	あ(ん)まり~からX ~の程度が高いことから必然的に起こる結果X	61
ちゃった	B	Vて+しまう 残念な気持ち 「てしまった」の話し言葉	62

表 I 中の「基本文型，用法，例」欄に，「話し言葉，音変化，東京方言」と記載のある項目について，レベル分けの判断基準を，以下で補足説明をしておく。

- ① 22「もんで」，25「こりゃ」，49「じゃないか」は，基本文型「もので」「これは」「ではないか」が音変化したもので話し言葉特有のものである。こういった話し言葉において音変化した引用箇所については，もとの基本文型でレベル分けをした。
- ② 13「てえのは」，17「てえこと」の基本文型は13「というのは」，17「ということ」である。「というのは」「ということ」ともに『日本語文型辞典』ではN3レベルに分類されているが，ここでは「という」が「てえ」に音変化する典型的な東京方言として現れているので，この音変化はすべてA (Advanced) に分類した。

- ③ 60「ねえか」中の「ねえ」は，「ない(nai)」が「ねえ(nee)」に音変化する典型的な東京方言として現れているが，この音変化は現在では一般的によく見られるので，B (Basic) での導入が可能である。ここでは文型の用法 (Vないか=命令) に焦点を置いてA (Advanced) に分類した。
- ④ 62「ちゃった」は，水原 (1994)⁴⁾ によれば，元は東京方言の話し言葉のみに現れる表現であったものが，戦後になって一般的になった。そして，現在では『日本語表現文型辞典』⁵⁾ の初級項目として取り扱われるほどに，特によく使われる表現となっているので，B (Basic) に分類した。

4) 水原明人 (1994) 『江戸語東京語標準語』講談社現代新書，p. 209-212

5) (2010) 『日本語表現文型辞典』アルク，p. 185-186

上記の表Ⅰをレベル別に集計し割合を出したものが、以下の表Ⅱである。

表Ⅱ 「寿限無」スクリプト
〈クラスレベル別の文型・文法数〉

レベル	文型・文法数	%
B (初級)	34	54.8
I (中級)	23	37.1
A (上級)	5	8.1
／合計	62	100.0

表Ⅱからは、学習者に導入する文型・文法のみならず約8%がAレベルであり、残りの約92%はB・Iレベルが占めていることがわかる。特にIレベルの学習者を対象とした場合、約55% (B) は既習済みであるので、前もっ

て、Aレベルの5項目を説明しておけば、このスクリプトはIレベルの学習者が文型・文法を学習するのに無理のないテキストであるといえる。

2.4.3 「時そば」スクリプトについて

ここでは、「時そば」スクリプトから取り出した、80の文型・文法について分析する。上記2.4.2同様に、「時そば」スクリプトから取り出した文型・文法は、その出現順に1~80までの通し番号をつけた。そして、それぞれを3つのレベル別に分け、さらに、その基本文型、用法、例などの補足説明を加えたものが次の表Ⅲ⁶⁾である。

表Ⅲ 「時そば」スクリプト 文型・文法分析

文型・文法 (80)

(所要時間：12分10秒)

引用箇所	クラスレベル	基本文型, 用法, 例	出現順
お笑い	B	お+Aい/N ご+Aい/N 丁寧語	1
申し上げます	I	「言います」の謙譲語	2
という	B	〈N:名前〉という 二八そば屋なんという	3
そうで	B	伝聞	4
だい	A	疑問詞+だい (疑問文をつくる終助詞)	5
花巻に卓袱	I	N1にN2 取り合わせ 例) おせんにキャラメル 的に矢	6
お寒うございます	I	お~ございます 挨拶表現 例) おはようございます	7
のほう	B	漠然とある方向をさす 例) 商売のほう 体調のほう 会社のほう	8
まるっきりいけません	A	まるっきり~ない, ぜんぜん~ない	9
から	B	原因・理由	10
じゃねえか	I	ではないか 判断・同意求め ~だと思う 「ねえ」は「ない」の東京方言	11
ちゃいけねえ	B	てはいけない 禁止・規制 「ちゃ」は「ては」の音変化	12
ちゃ	B	「ちゃ」は「ては」の音変化 ては (tewa) = ちゃ (tya)	13
ず	I	ない 打消しの助動詞	14

6) 表Ⅲクラスレベル欄の表記について、B：初級 I：中級 A：上級を表す。

「落語」を教材とした日本語授業の試み（森 真由美）

てんだ	A	「てんだ」は「とこのだ」の東京方言	15
こりゃあ	B	これは (korewa) = こりゃあ (koryaa) 音変化	16
どうも	B	挨拶表現 例) どうもありがとう 昨日はどうも	17
おっしゃいます	I	「言います」の尊敬語	18
どうぞ	B	挨拶表現 依頼の気持ちを表す 例) どうぞよろしく	19
かい	A	YES・NO疑問文をつくる終助詞	20
なんぞは	A	などは ~のようなものは 「なんぞ」は東京方言	21
たら	B	Vたら, その後で~ Vの動作の完了後, ~を する/になる (仮定ではない)	22
てもらう	B	Vて+もらう	23
おや	I	間投詞 意外なことや不審に思ったときに発する語	24
あつらえたとたんに	I	Vたとたんに ~したら, その瞬間に	25
気がきいて	I	気がきく 慣用表現	26
ものによっちゃあ	I	N+によっては ある~の場合は 「ちゃあ(tyaa)」は「ては(tewa)」の音変化	27
催促すりゃあ	B	催促すれば ~ば (仮定) 「りゃあ(ryaa)」は「れば(reba)」の音変化	28
野暮んなる	B	Nになる 結果	29
そばだのうどん	I	N1だのN2だの=N1とかN2とか 例示	30
てえのは	A	というのは 主題 「てえ」は「という」の東京方言	31
ほど	I	(ば・なら) ~ほど 相関関係	32
てもできねえ	B	ても (~ない) 逆接仮定 「ねえ」は「ない」の東京方言	33
もう	I	もう+量・程度 例) もういっぺん もう一杯 もうすこし	34
気がしなく	I	気がしない 慣用表現	35
てくる	B	Vて+くる 変化の出現 例) 雪が降ってくる 眠くなってくる	36
気が短え	I	気が短い 慣用表現	37
けど	B	「けど」は「けれども」の話し言葉 縮約形 逆接	38
てある	B	Vて+ある 人が目的を持って行った行為の結果	39
のせい (で/か)	B	Aな/Nの+せい (で/か) ~が原因 (で/かどうかわからないが)	40
とくりゃあ	A	Nとくれば (Nで話題をとりあげる) = といえば 「りゃあ」は「れば」の音変化	41
と	B	Vる+と 条件	42

だけで	B	限定	43
はわかっちゃう	B	が/はわかる	44
なかなか出ねえ	B	なかなか～ない すぐに見つからない	45
そこへ行くてえと	A	そこへ行く(という)と=その点から考えると「てえ」は「という」の東京方言	46
言いてえところ(なん)だが	A	Vたいところですが「てえ」は「たい」の東京方言 Vする直前で欲求を抑えている状態を表し、実現しないことを含意	47
ちゃった	B	「ちゃった」は「てしまった」の話し言葉 Vて+しまう 残念な気持ち	48
～んだよ	I	のだよ 「のだ」説明, 「よ」主張を表す終助詞	49
でございます	B	でございます 「～です」の丁寧語	50
てしまう	B	Vて+しまう 完了	51
申したい	B	Vたい 欲求・希望 「申す」は「言う」の謙讓語	52
だって	I	助動詞だ+伝聞の「って」=だということだ	53
わけじゃねえ	I	わけじゃない=わけではない 部分否定(必ず～とはいえない)	54
と思った	B	と思う	55
～だったら	B	Nだったら 条件	56
てやろう	I	Vて+やる 「Vてあげる」のぞんざいな言い方	57
て行き	B	Vていく 話者への離反	58
嫌味	I	接尾語 ～み 例) いやみ あまみ ありがたみ	59
こたあねえ	I	Vることはない ～する必要はない	60
何がXだ	A	疑問詞+Xだ 怒りの気持ち 例) だれが言ったんだ	61
行ったって	I	「行っても」の話し言葉 逆接仮定	62
なきゃあいけねえ	I	なきゃいけない=なければいけない	63
～すぎた	B	V/Aすぎる(複合動詞) 過度な状態 例) 食べすぎる 高すぎる	64
～といて	I	Vとく=Vて+おく 何かの目的のために、その準備としてある行為をする	65
あくる日	I	あくる+N 例) あくる朝 あくる年	66
早め	I	接尾語 ～め 例) 早め 多め 短め 長め 控えめ	67
まだ、できねえ	B	まだVない 未完了の状態	68
もんで	I	もので=～ので 「もんで」は話し言葉 個人的な言い訳・理由	69
できりゃあいい	B	できりゃあいい=できればいい Vば/Aければ+いい 希望・願望	70

ようじゃあねえか	A	Vようじゃないか=Vようではないか 提案・意志表明	71
ちゃんと	I	「その状況に合った適切な状態」という意味の副詞	72
たほうがいい	B	Vた/Vない+ほうがいい 提案	73
だらけ	I	Nだらけ よくないNがたくさんある 例) 泥だらけ ごみだらけ	74
ちょっと	I	呼びかけ	75
～なんか	I	Nなんか 否定的な気持ちを表す 「なんか」 は話し言葉	76
の代わりに	I	Nのかわりに, Vるかわりに 代理	77
へえー	I	驚きをあらわす声	78
じゃねえかと思った	I	ではないかと思う 判断	79
もう	I	もう+否定表現 憤慨・失望・困惑 例) もうやめる もういやだ	80

表Ⅲ中の「基本文型，用法，例」欄に，「話し言葉，音変化，東京方言」と記載のある項目について，レベル分けの判断基準を，以下で補足説明をしておく。

- ① 11「じゃねえか」，12「ちゃいけねえ」，33「てもできねえ」，45「なかなか出ねえ」，54「わけじゃねえ」，60「こたあねえ」，63「なきゃあいけねえ」，68「まだ，できねえ」，71「ようじゃあねえか」，79「じゃねえかと思った」に現れているように，「ない(nai)」が「ねえ(nee)」に音変化するのは東京方言の特徴であるが，現在では一般的によく使われる表現なので，このことをレベル分けの対象要因とせず，それぞれの基本文型に焦点をおいてレベル分けをした。このパターンの音変化は，37「気が短^{みじけ}え(kee)」，47「言いてえ(tee)ところなんだが」も同様，(-ai- → -ee-)である。
- ② 13「ちゃ」に表れる「ちゃ(tya)」は「ては(tewa)」の音変化である。この音変化は話し言葉特有のものであり，B(Basic)での導入項目である。よって，このパターンの音変化が含まれる文型は，上記「ない」同様にレベル分けの対象要因と

せず，それぞれの基本文型に焦点を置いてレベル分けをした。(他に，11「じゃねえか」，12「ちゃいけねえ」，27「ものによっちゃあ」，54「わけじゃねえ」，71「ようじゃあねえか」，79「じゃねえかと思った」)

- ③ 27「ものによっちゃあ(tyaa)」は「ては」が「ちゃ(あ)」に音変化したもので，28「催促すりゃあ(ryaa)」，41「とくりゃあ(ryaa)」，70「できりゃあ(ryaa)いい」は，「れば」が「りゃ(あ)」に音変化したもので，これらは話し言葉特有のものであり，レベル分けの対象要因とせず，それぞれの基本文型に焦点を置いてレベル分けをした。
- ④ 15「てんだ」，31「てえのは」，46「そこへ行くてえと」，47「言いてえところなんだが」に現れる「て/てえ」は「という」が音変化したもので，東京方言の典型的な特徴である。この音変化はすべてA(Advanced)に分類した。
- ⑤ 29「野暮んなる」に見られる「ん」は，話し言葉において「に」が「ん」に音変化したものである。こういった話し言葉において音変化したものについては，もとの基本文型「になる」でレベル分けをした。

⑥ 48「ちゃった」は、元は東京方言の話言葉のみに現れる表現であったものが、戦後になって一般的になり、現在では特によく使われる表現となっているので、B (Basic) に分類した。

上記の表Ⅲをレベル別に集計し割合を出したものが、以下の表Ⅳである。

表Ⅳ 「時そば」スクリプト
〈クラスレベル別の文型・文法数〉

レベル	文型・文法数	%
B (初級)	34	42.5
I (中級)	35	43.7
A (上級)	11	13.8
／合計	80	100.0

表Ⅳからは、学習者に導入する文型・文法の約14%がAレベルであり、残りの約86%はB、Iレベルがほぼ同量に占めていることがわかる。特にIレベルの学習者を対象とした場合、約42%は既習済みであるので、前もって、Aレベルの11項目(約14%)を説明しておけば、このスクリプトはIレベルの学習

者が文型・文法を学習するのに無理のないテキストとなりうる。

前項2.4.2の「寿限無」スクリプトと比較して、Aレベルの割合が多くなった理由として、「寿限無」スクリプトでは「寿限無、寿限無、五劫の摺り切れ、……、長久命の長助」という決まったフレーズが繰り返され、それがスクリプトの多くを占める構造となっていること、一方、「時そば」は21「なんぞは」に見られるように東京方言色が強く、それをAに分類したことが考えられる。

2.4.4 「饅頭怖い」スクリプトについて

ここでは、「饅頭怖い」スクリプトから取り出した103の文型・文法について分析する。上記2.4.2, 2.4.3同様に、「饅頭怖い」スクリプトから取り出した文型・文法は、その出現順に1~103までの通し番号をつけた。そして、それぞれを3つのレベル別に分け、さらに、その基本文型、用法、例などの補足説明を加えたものが次の表Ⅴ⁷⁾である。

表Ⅴ 「饅頭怖い」スクリプト 文型・文法分析

文型・文法 (103)

(所要時間：17分12秒)

引用箇所	クラスレベル	基本文型, 用法, 例	出現順
という	B	〈N:名前〉という 井戸端会議という	1
ございました	B	ございます=あります の丁寧語 存在	2
かもしれません	B	かもしれない 推量	3
という	B	〈内容説明〉という おしゃべりに花を咲かせるという	4
から	B	原因・理由	5
と	B	Vる+と 条件	6
ようで	B	推量	7
てくれる	B	Vて+くれる	8

7) 表Ⅴクラスレベル欄の表記について、B：初級 I：中級 A：上級を表す。

「落語」を教材とした日本語授業の試み（森 真由美）

どうも	B	挨拶表現 例) どうもありがとう どうもすみません	9
お松ちゃんにお竹さん	I	N1にN2 取り合わせ 例) おせんにキャラメル	10
てちょうだい	A	「Vて+ください」の話し言葉 依頼・軽い指示	11
ご用	B	ご+A/N お+A(い)/N 丁寧語 例) ごあいさつ お元気	12
もんだから	I	ものだから=～ので 理由・個人的な言い訳	13
てもらって	B	Vて+もらう	14
さしてもらおう	I	させてもらう, させていただく, させていただきます	15
とって	I	と思う	16
なんか	I	など=～のようなものは 「なんか」は話し言葉	17
ことはない	I	～する必要はない ～しないほうがいい	18
よ	B	終助詞 断定・念押し・命令・疑問・勧誘	19
せっかく～んだから	I	せっかくXの/んだから 相手のために努力してXをしたという気持ちを表す	20
だい	A	疑問詞+だい 疑問文をつくる終助詞	21
～ていいんだよ	B	てもいい 許可・許容 「ていい」は話し言葉	22
まあ	I	驚き・感心・意外に思ったときに発する声	23
たって	I	Vた+って=ても 「たって」は話し言葉	24
始めた	I	V+始める(複合動詞) 動作の始め 例) 言い始める 食べ始める	25
だって	I	接続詞 先に述べたことについての理由・状況説明	26
じゃないか	I	ではないか 判断・同意求め ～だと思う	27
なものだ	I	Aなものだ 感慨・驚き・感心	28
んところ	B	のところ 「んところ」は話し言葉・音変化	29
かい	A	YES・NO疑問文をつくる終助詞	30
てみよう	B	Vて+みる 何かを知るために, 試しにVする	31
かしら	I	終助詞 目下や親しい相手に対する問いかけ 女性語	32
が好き	B	Nが好き	33
けれども	B	逆接	34
暑いにつけ寒いにつけ	A	V/AにつけV/Aにつけ慣用表現 どちらの場合でも	35
ちょっと	B	呼びかけ	36
て来る	B	Vて+くる 方向性・話者への接近	37
せっかく ～のに	I	せっかくXのにY 努力や苦労が無駄になることを残念に思う気持ち	38

ちまって	A	ちまう=てしまう Vて+しまう 残念な気持ち 「ちまう」は東京方言	39
ちゃいけない	B	てはいけない 禁止・規制	40
ようと思っ(たら)	B	ようと思う 意志	41
たら	B	Vたら 条件	42
怖いものだったって	I	=怖いものといっても Nといっても 実態の説明 「ったって」は話し言葉	43
蛇ほど怖いものはない	I	Nほど～はない Nが一番～ 強調して言う時	44
たんですよ	I	=たですよ 「たですよ」過去の事柄の説明 「よ」主張を表す終助詞	45
の	I	終助詞 断定	46
わけない	I	わけがない 当然～ない「わけない」は話し言葉	47
気に入った	I	気に入る 慣用表現	48
まったくしょうがない	I	まったく～ない 否定の強調	49
お拭きなさい	I	おVなさい 丁寧で軟らかい命令文	50
といて	B	Vて+おく 「Vとく」は音変化 何かの目的のために準備してある行為をする	51
ってことは	I	ということは～ 「～」で結論を述べる	52
が一番	B	Nがいちばん ある範囲のなかで最高のものをいうときの表現	53
だけで	B	限定	54
もう蟻がきらい	I	もう+否定表現 憤慨・失望・困惑	55
わけじゃない	I	わけではない 部分否定(必ず～とはいえない)	56
じゃないかと思って	I	ではないかと思う判断	57
そりゃ	I	それは(sorewa)=そりゃ(sorya) 音変化	58
怖いだの嫌いだの	I	～だの～だの=～とか～とか 例示	59
ちょっと見て	B	ちょっと見る「ちょっと」で軽い気持ちをあらわす	60
ってえと	A	～というと ～と仮定したら 「ってえと」は東京方言	61
てあげよう	B	Vて+あげる	62
よかったら	B	よかったら(Vて下さい/Vませんか) 丁寧な依頼・勧誘	63
ませんか	B	Vませんか 勧誘	64
働いてる最中に	I	Vている最中に 「ちょうど～しているとき」という意味	65
だこと	I	Nだこと 感嘆・驚き 話し言葉・女性的表現	66
ですけど	B	だけれども 話の前置き	67
もんじゃない	I	ものではない 忠告	68
じゃないか	I	ではないか 反論	69

「落語」を教材とした日本語授業の試み（森 真由美）

くらい	I	軽視 ～のような軽いことや簡単なこと	70
みてごらんなさい	I	Vてごらん（なさい） 「Vてみなさい」の上品な表現	71
炊きあがった	I	V+あがる（複合動詞） 完成 例）できあがる 焼きあがる	72
うまいのうまくないの	A	～の～ないの 程度が激しいことを表す話し言葉	73
恐れ入りました	I	「感心する」という意味で慣用的に使う	74
てくる	B	Vて+くる 行って戻る（「Vていく」の形はない）	75
まで	I	N+まで ～も ～さえ	76
言いなさい	I	Vなさい 命令・指示	77
のに、どうして	B	のに（どうして） 逆接 不満・予想外	78
たり	B	VたりVたりする 複数の行為	79
のこと	I	Nのこと Nに関する様々な事柄	80
って	I	という 伝聞・引用 「って」は話し言葉	81
ほど	B	（ば・なら）～ほど 相関関係	82
てきた	B	Vて+くる 変化の出現 例）雪が降ってくる 眠くなってくる	83
そうにない	I	Vそうにない Vそうもない 可能性が少ない	84
ず	I	ない 打消しの助動詞	85
どうぞ	B	どうぞ（～てください） 勧誘 例）どうぞおかけください	86
ことにして	B	ことにする 自分の意志である行為をする	87
させられて	B	使役受け身 させられる	88
どんだけ驚くか	A	どれだけ～か＝どんなに～か 程度を強調する時の表現	89
ばいい	B	Vばいい・Vればいい 提案	90
もし～としたって	I	（もし）～としたら 仮定 「としたって」は話し言葉	91
いわゆる暗殺	I	いわゆるN 一般的に使われる言葉Nを使って説明するときの表現	92
行ったほうがいい	B	Vたほうがいい 提案	93
ようにします	B	Vるようにする 心がける	94
ようじゃないかい	A	Vよう+ではないか＝～しよう 強い誘い・提案	95
饅頭という饅頭	I	NというN 全部のN	96
どうも	I	話者のマイナス評価の感情を表す 例）どうも様子がおかしい	97
ような気がして	I	ような気がする 「ような」は推量 ような感じがする	98

気になる	I	慣用表現	99
ちゃんと	I	「適切とみなされるあり方で」という意味で使われる	100
ちょっと冗談じゃない	A	ちょっと～ない 否定の強調	101
じゃないの	I	ではないか 反論	102
いったい何が怖いんだい	I	いったい+疑問文 話者の「わからない」気持ちを強調	103

表V中の「基本文型，用法，例」欄に、「話し言葉，音変化，東京方言」と記載のある項目について，レベル分けの判断基準を，以下で補足説明をしておく。

- ① 27「じゃないか」，56「わけじゃない」，57「じゃないかと思って」，68「もんじゃない」，69「じゃないか」，95「ようじゃないかい」，102「じゃないの」に現れる「じゃ(dya)」は「では(dewa)」の音変化である。この音変化は話し言葉特有のものであり，B(Basic)での導入項目である。よって，このパターンの音変化が含まれる文型は，レベル分けの対象要因とせず，それぞれの基本文型に焦点を置いてレベル分けをした。
- ② 40「ちゃいけない」の「ちゃ(tya)」は「ては(tewa)」が「ちゃ(tya)」に音変化したもので，これらは話し言葉特有のものであり，レベル分けの対象要因とせず，それぞれの基本文型に焦点を置いてレベル分けをした。
- ③ 13「もんだから」，29「んところ」，45「たんですよ」，68「もんじゃない」，103「いったい何が怖いんだい」に見られる「ん」は，話し言葉において「の」が「ん」に音変化したものである。こういった話し言葉において音変化したものについては，それぞれの基本文型でレベル分けをした。
- ④ 89「どんだけ驚くか」に見られる「ん」は，話し言葉において「れ」が「ん」に音変化したものである。こういった話し言葉

において音変化したものについては，それぞれの基本文型でレベル分けをした。

- ⑤ 39「ちまって=ちまう」の基本文型は「てしまう」であり，これはB(Basic)であるが，ここでは「ちまう」という典型的な東京方言で表れているので，A(Advanced)に分類した。
- ⑥ 61「ってえと」の「てえ」は「という」が音変化したもので，典型的な東京方言である。この音変化はすべてA(Advanced)に分類した。

上記の表Vをレベル別に集計し割合を出したものが，以下の表VIである。

表VI 「饅頭怖い」スクリプト
〈クラスレベル別の文型・文法数〉

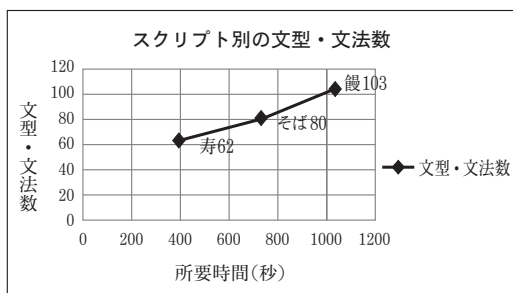
レベル	文型・文法数	%
B(初級)	41	39.8
I(中級)	52	50.5
A(上級)	10	9.7
／合計	103	100.0

表VIからは，学習者に導入する文型・文法の約10%がAレベルであり，残りの約90%はB，Iレベルが4：5の割合で占めていることがわかる。特にIレベルの学習者を対象とした場合，約40%は既習済みであるので，前もって，Aレベルの10項目(約10%)を説明しておけば，このスクリプトはIレベルの学習者が文型・文法を学習するのに無理のないテキストとなりうるということがわかる。

3. 3つの落語スクリプトに出現する文型・文法の傾向分析

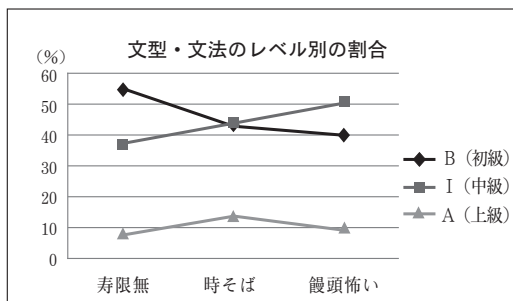
ここでは、先述の3つのスクリプトに出現する文型・文法の傾向を分析、考察した。

以下の〈グラフ①〉は、各スクリプトの所要時間と出現した文型・文法数との関係である。所要時間が増えると相対して文型・文法数も増えることがわかる。



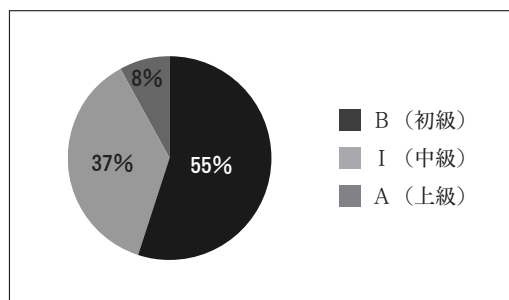
〈グラフ①〉 各スクリプトの所要時間と出現した文型・文法の関係

以下の〈グラフ②〉は、各スクリプトに出現した文型・文法数のレベル別の割合である。これによれば、どのスクリプトにおいてもAレベルの占める割合は10%前後であり、スクリプトの長さに関係していないことがわかる。またどれも残りの約90%はB, Iレベルが同じような割合で占めているが、スクリプトが長くなるとIレベルの占める割合が増えることがわかる。

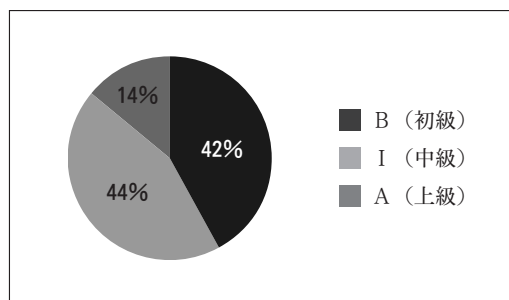


〈グラフ②〉 3つの落語スクリプトの文型・文法数のレベル別割合

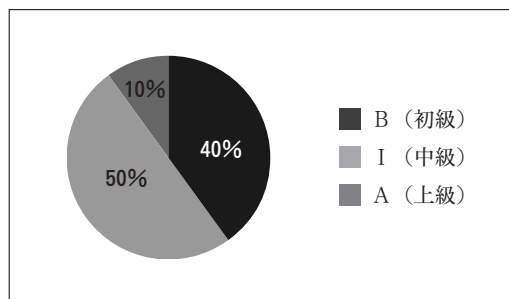
次に、各スクリプトごとに、出現した文型・文法数のレベル別の割合を円グラフで見る。



〈グラフ③ 寿限無スクリプト〉



〈グラフ④ 時そばスクリプト〉



〈グラフ⑤ 饅頭怖いスクリプト〉

上記の3つの円グラフ⁸⁾から、Bレベルの割合は「寿限無」が55%と一番多く、所要時間が長くなるにつれて「時そば」42%、「饅

8) 表II, 表IV, 表VI中の%欄では小数点第一位まで算出したが、上記3つの円グラフ中においては見やすさを重視し整数で示した。その際、小数点第一位は次のように取り扱った。通常の四捨五入では、合計(100%)に誤差が生じたため、小数点第一位の5以下は切り捨て、小数点第一位の6以上は切り上げとした。

頭怖い」40%と減少していくことがわかる。一方、Iレベルの割合は、所要時間の増加とともに、「寿限無」37%、「時そば」44%、「饅頭怖い」50%と増加している。Aレベルの割合は所要時間に関係なく、10%前後である。残りの約90%がB、Iレベルの文型・文法で構成されており、また、その割合はどちらも40~50%前後で極端な違いは見られなかった。

4. おわりに

以上の分析結果から、これら3つの落語スクリプトは、Iレベルの学習者が既習のBレベルの復習を兼ねながら、Iレベルの文型・文法を無理なく学習できるテキストとして有効であるという傾向がうかがえた。

実際に教室活動の主教材として使用する場合、一概にIレベルのクラスと言っても、その中でレベルの到達度は異なるから、クラスレベルに合わせて、所要時間が短くて比較的Bレベルの多い「寿限無」スクリプトから、「時そば」「饅頭こわい」と使用スクリプトを選べばよいと思われる。その際、Aレベルの文型・文法の扱いについては、Iレベル前期のクラスであれば教室活動前に取り上げて導入する、また、Iレベル後期のクラスであればIレベル文型・文法と同じように教室活動中に導入してもよいであろう。

今回は3つの落語スクリプトの文型・文法分析に留まった。今後は、さらにスクリプトの数を増やしてその傾向を分析し、また、日本語能力試験に対応した文型・文法の教室活動を実践し、分析データを集めることを課題としたい。

本論は、2011年度に金城学院大学大学院文学研究科に提出した修士論文「日本語教育における「落語」教材の有効性の検証—「時そば」の指導を中心として— 第5章」を、加筆修正したものである。

参考文献

- アメリカ・カナダ十一大学連合日本研究センター編 (1983) 『教師用日本語教育ハンドブック別冊 教科書解題』国際交流基金
表3 *Basic Japanese Course* (1958) 長沼直兄編 p.54-57 *Integrated Spoken Language* (1971)
水原明人 (1994) 『江戸語東京語標準語』講談社現代新書
国際交流基金 (日本語能力試験公式ウェブサイト www.jlpt.jp/about/index.html)

参考とした辞典

- (2010) 『日本語能力試験N1~N5の重要表現を網羅 日本語表現文型辞典』アルク
(2007) 『日本語文型辞典』くろしお出版
(2004) 秋永一枝編『東京弁辞典』東京堂出版
(2002) 『日本国語大辞典』小学館

参考としたDVD

- 「NHK趣味悠々 落語をもっとたのしもう 上巻〈寿限無〉に挑戦!」PCBE-51649
NHK 2007
「NHK趣味悠々 落語をもっとたのしもう 下巻〈時そば〉に挑戦!」PCBE-51650
NHK 2007
「古典落語 お稽古つけ 三遊亭歌る多 饅頭怖い」EXPD-3284 2009